

平成21年度文部科学省「全国学力・学習状況調査」(平成21年4月21日実施)

～結果分析と今後の対策～

江戸川区立瑞江中学校

【学習状況調査から】

本校はこれまで、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムの向上をはかり、行事や道徳で豊かな心を育んできた。結果として「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」生徒は80%に達し、自己肯定感が高く、豊かな心が育っている。「近所の人にあったときは、あいさつをする」生徒88.8%、「人の気持ちが分かる人間になりたい」生徒95.2%、「いじめは、どんな理由があってもいけない」と考える生徒93.6%など、前向きな考えの生徒が大変多い。その一方で、自主的に家庭学習に取り組む生徒は少ない。学校の宿題や塾で与えられた課題学習は行うものの、自主的に勉強するという姿勢がやみられないようである。特に家では、テレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりし、テレビゲームやインターネット、携帯電話で通話やメールなどをして過ごす時間が都や国の平均より多い。

今後の課題として、自主的な家庭学習(予習や復習)の推進をはかる必要がある。

【国語】

・以下のグラフは、調査の結果である。

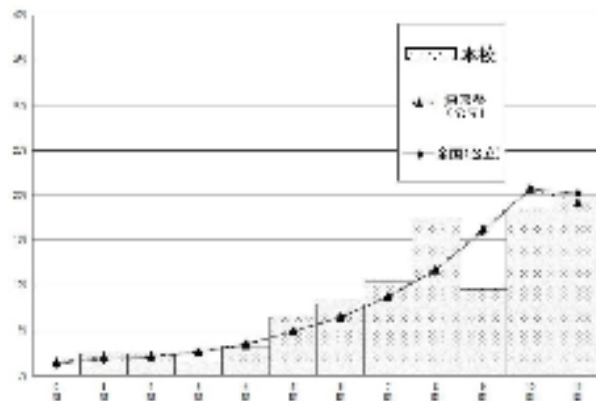
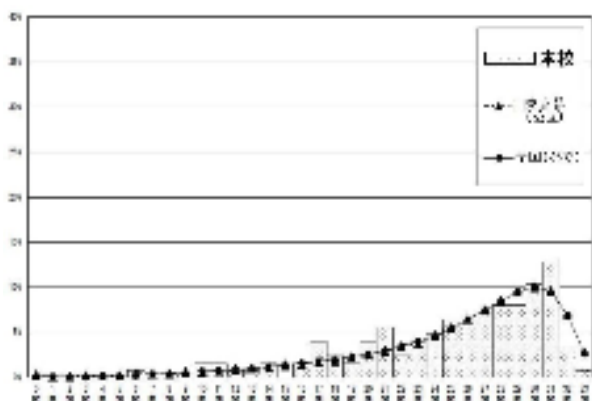


図1 正答数分布グラフ (左) 主として知識 (右) 主として活用

1. 結果分析

全体的に全国や東京都の平均とほとんど変わらない結果であった。

<知識>

書く力・読む力をはかる問題で若干平均を下回った。古文の知識がまだ十分に身につけていないようである。

<活用>

知識とは逆に書く力が若干平均を上回った。国語への関心・意欲・態度も平均を若干上回った。資料の図が、文章のどの部分を補足しているかについて、文章中から抜き出す設問には正答率が低かった。

2. 今後の対策

問題形式での知識・活用の定着を図るようにしていきたい。各項目で平均を上回るよう、習熟度に応じた指導を継続し、底上げを図る。

また、文章と資料との関わりを理解できるように指導法を工夫していきたい。

【数学】

・以下のグラフは、調査の結果である。

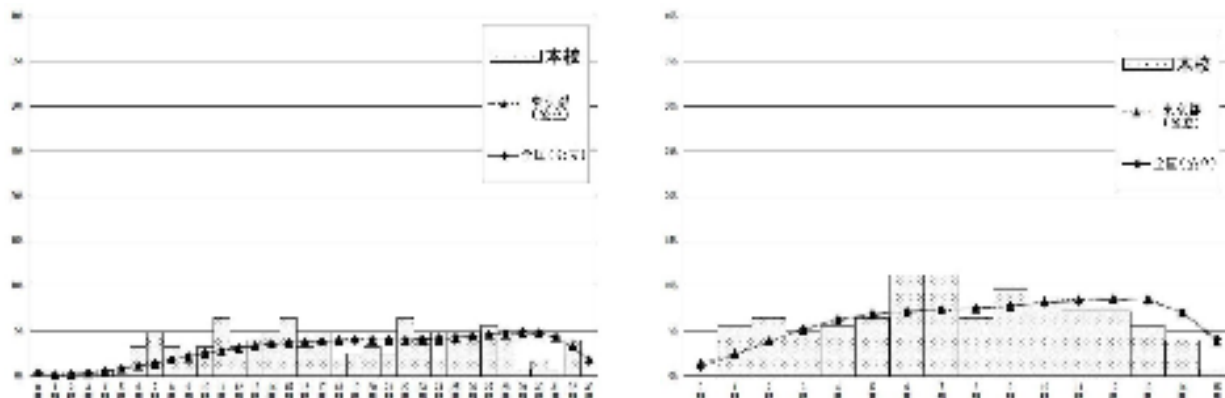


図1 正答数分布グラフ (左) 主として知識 (右) 主として活用)

1. 結果分析

残念ながら本校の生徒は、全体的に知識・活用ともに、全国や都の平均を下回っていた。以下、知識・活用ともに見解を述べる。

<知識>

数量分野では、文字式の計算や、等式の変形など、文字を扱う処理を苦手としていた。また、関数全般について、特に反比例についての正答率が低かった。反比例の表から式を求める方法についてだけでなく、反比例の関係になる事象を選ぶ問題も苦手としている事から、反比例の概念自体の理解が不十分であるようだ。

図形分野では、他の分野より、比較的全国や都の平均に近づきつつある。

<活用>

証明問題は、昨年同様、全体的に苦手としていた。特に、問題を数学的に解釈し、筋道を立てて考え、説明することができなかった。

2. 今後の対策

- (1) ワークを用いて、文字式の計算や等式の変形など、文字式を使った基本的な問題を日々、家庭学習させる。また、授業前に簡単な計算問題を適宜行い、基礎学力の定着を図る。
- (2) 関数分野では、表・式・グラフの関係が明確に理解できるよう指導に工夫をする。特に反比例に関しては、分数の苦手意識から取り去るような工夫が必要である。
- (3) 図形では、教具をさらに充実させ、それを活用することで具体的なイメージが出来るような授業を展開する。
- (4) 土曜学習教室等で、個々の能力に合わせた補充を行い、数学が苦手な生徒が減るような環境を作っていく。